

Q2： 学力向上に向けて、どのような取組をしていけばよいでしょうか。具体的な取組について紹介してください。

本県の教育課題の一つとして、子どもたちの学力向上が挙げられます。子どもたちの確かな学力を育むためには、「教師の指導力」、「子どもの学ぶ意欲・学習習慣」、「保護者の理解・協力」の3つの要素が欠かせません。各学校においては、この3つの要素を意識して、学力向上のために様々な工夫をして、取り組んでいることと思います。今後は、現在の取組を検証し、改善を加えながら継続して着実に実施していくことが大切です。ここでは、地区内の特色ある取組について紹介しますので、ぜひ参考にしてください。

- 【取組1】言語活動の充実
- 【取組2】ノート指導の充実
- 【取組3】振り返る活動の充実
- 【取組4】調査問題の活用
- 【取組5】授業サポーターとの協働による授業実施のための体制づくり
- 【取組6】自主学習プロジェクト
- 【取組7】家庭向け学習通信・教職員向け通信の発行

## 1 言語活動の充実

### 【1】学習展開のパターン化

学習展開を「つかむ」・「考える」・「深める」・「まとめる」といった流れで各教科統一して取り組むことで、授業に「見通し」をもたせ、児童生徒の主体的な学習へつなげる。特に導入時の「つかむ」段階で「おもしろい」・「不思議だ」などの思いを問題解決につなげる授業展開の工夫が大切である。



学 習 活 動	
【つかむ】	1 前時の振り返りをする。 文章全体の構成を確認する。
	2 学習課題を確認する。
【課】 筆者が文章以外のいろいろな資料を	
【考える】	3 文章以外の表現の工夫を見付け、分類する。
	4 第1段落の「まちがいさがしプリント」をする。
	5 表を使ったわけについて考える。(一斉学習)
【深める】	6 写真・図・グラフのそれぞれを用いてわけについてまとめる。
	(1) 個人学習 (2) ペア学習
【ま】 筆者は、表やグラフ等の資料	
【まとめる・振り返る】	7 学習の振り返りをする。 (1) 本時のまとめを書く。 (2) 本時の学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。

〈学習展開のパターンを明記した指導案の例〉

### 【2】ペア学習の実践

「考える」・「深める」学習展開において、ペア学習は大変有効である。「ペア学習の手引き」を作成することで、活動の「型」を徹底することができ、互いに意見の練り合い・深め合いができるようになる。